

## 第1章 調査概要

### 1. 調査目的

本調査の目的は、家庭から排出される家庭系ごみ（可燃、雑がみ）、事業所などから排出される事業系ごみについて組成割合を調査し、ごみの排出状況を把握するとともに、更なるごみの減量化・資源化推進のための基礎資料とすることである。

### 2. 調査実施内容

#### ① 事業系ごみ

- 【実施日】 令和2年12月7日（月）
- 【調査場所】 弘前地区環境整備センター（弘前市大字町田字筒井 6-2）
- 【季節】 春・夏・秋・冬
- 【採取量】 201.4kg
- 【気温（平均）】 4.8℃

#### ② 事業系ごみ

- 【実施日】 令和2年12月15日（火）
- 【調査場所】 弘前地区環境整備センター（弘前市大字町田字筒井 6-2）
- 【季節】 春・夏・秋・冬
- 【採取量】 200.2kg
- 【気温（平均）】 -4.6℃

### 3. 調査手順

#### （1）試料の回収

##### ① 事業系可燃ごみ

事業系可燃ごみを収集し、弘前地区環境整備センターへ搬入してきたごみ収集車から市職員が試料を取り出す。

#### （2）分類及び重量の記録

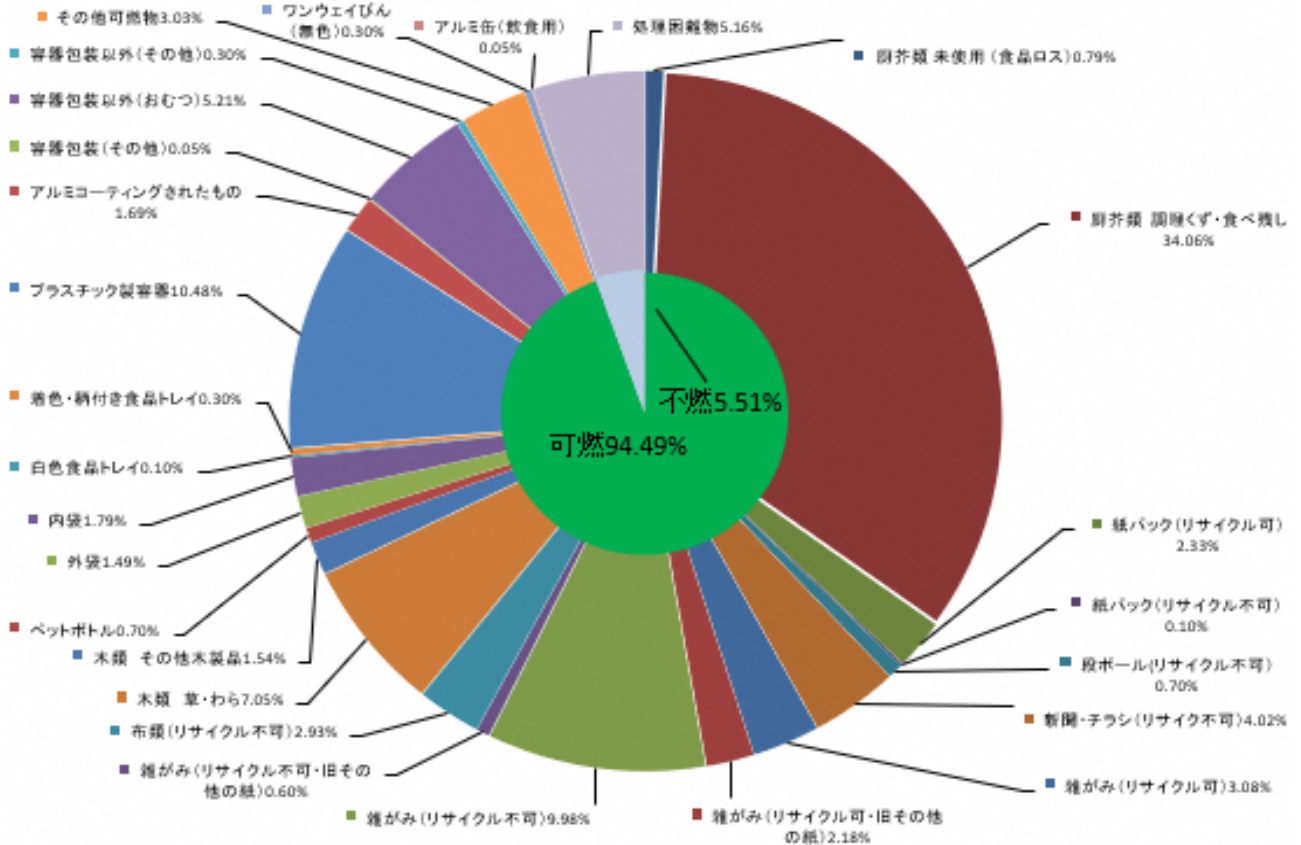
搬入された試料の分類を行い、組成区分ごとに重量を計量し、記録する。

## 第2章 調査結果

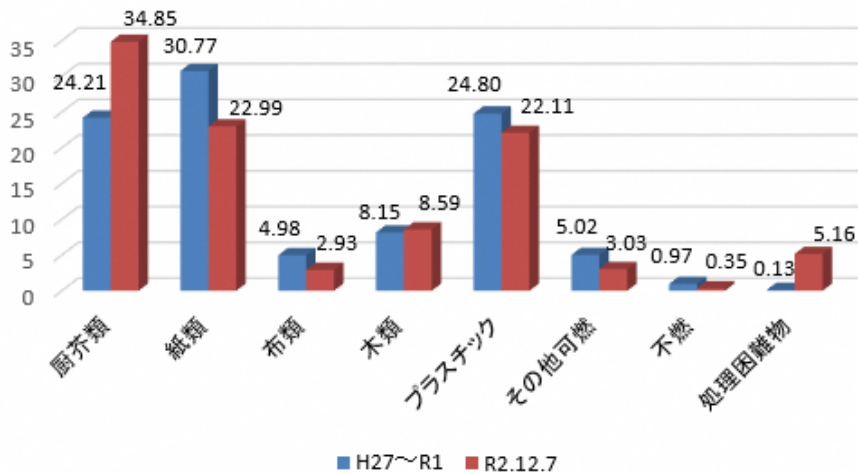
### ① 事業系可燃ごみ

今回実施した組成分析調査の調査結果を別表に示した。

重量比で10%以上の大分類の組成項目は「厨芥類（生ごみ）」（34.85%）、「紙類」（22.99%）、「プラスチック」（22.11%）の3種であり、全体の約79.95%を占めていた。個別に見ると、厨芥類（生ごみ）「調理くず・食べ残し」（34.06%）、プラスチック（容器包装）「プラスチック製容器」（10.48%）、の割合が高かった。



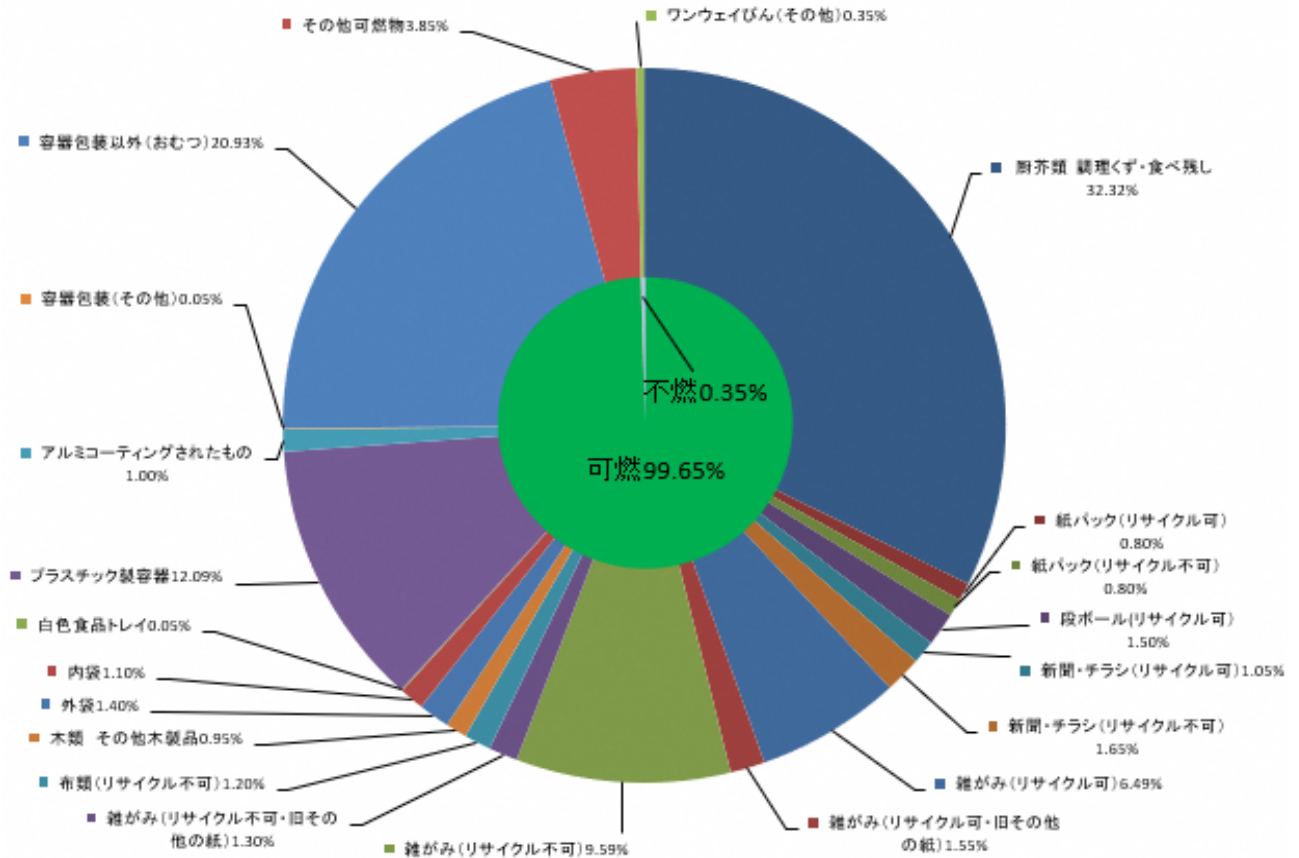
事業系可燃ごみ組成分析調査結果比較



② 事業系可燃ごみ

今回実施した組成分析調査の調査結果を別表に示した。

重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック類」(36.62%)、「厨芥類(生ごみ)」(32.32%)、「紙類」(24.73%)、の 3 種であり、全体の約 93.67%を占めていた。個別に見ると、厨芥類(生ごみ)「調理くず・食べ残し」(32.32%)、プラスチック類(容器包装以外)「おむつ」(20.93%)、プラスチック類(容器包装)「プラスチック製容器」(12.09%)、の割合が高かった。



事業系可燃ごみ組成分析調査結果比較

